

令和8年度 教育活動の全体構想図（グランドデザイン）

北海道釧路鶴野支援学校

先を見通すことが困難な時代

—自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動できるように—

生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、「ウェルビーイング」（心身ともに健康で、幸福であること）を実現していけるように 「OECD ラーニング・コンパス 2030」令和元年

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していきことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。 文部科学省HP「共生社会の形成に向けて」

教育は、子どもたち一人一人の人生を幸せで豊かなものにするとともに、「持続可能な社会の創り手」の育成と、教育活動全体を通じ、子どもたちはもとより教職員、学校、地域、社会のウェルビーイングの向上を図る重要な役割を有しております。「教育行政執行方針」令和7年2月

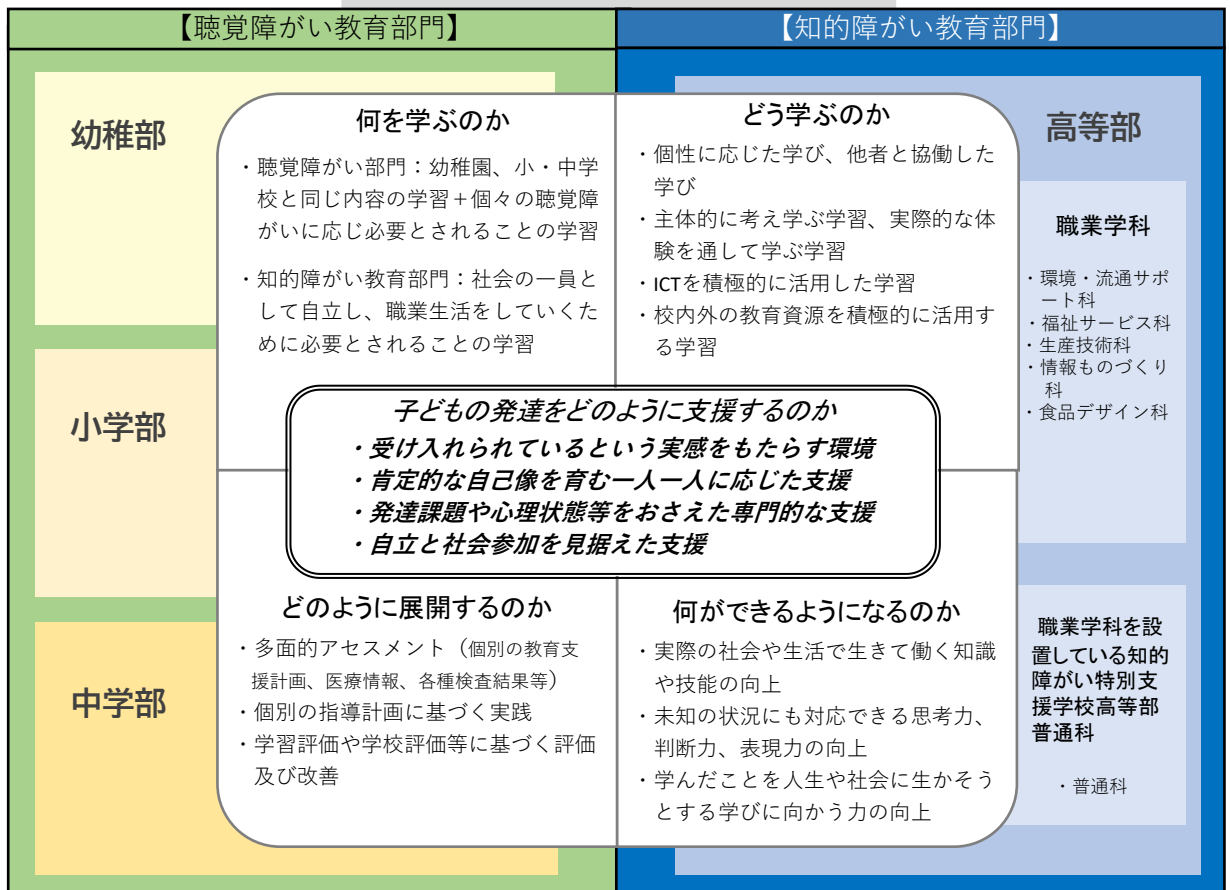
学校教育目標

自立をめざして 明るく 元気に 努力し続ける人を育てる — 校訓 全力 前進 笑顔 —

令和8年度の重点実践事項

子どもまんなか～今を大切に、学びを広げ、チームで応える～

- 1 教育課程の見直し作業を開始する。
- 2 授業力や指導力向上に向けたきめ細やかな研修を行い、組織全体の教育力を高める。
- 3 学校のチーム力を高めるための働き方改革を推進し、職員がより連携・協力しやすくする。



安全・安心な学校

○安全・安心な環境

【安全安心にする仕組み】最悪の事態を想定した備え・予防策、対応訓練、迅速な連絡・報告・対応、ヒヤリハット情報の共有、対応策等の定期的な見直し

○安全・安心な職員

【プロ意識】教育のプロとしての知識と技量、法令順守、期待に応えようとするマインド、健康で余裕あるコンディション、怒りのコントロール

○安全・安心な対応

【相手への敬意】子ども・保護者・職員・関係者等、誰に対しても相手をリスペクトしている気持ちが伝わる対応、相手の存在を否定しない言動

地域とともにある学校

- ・情報発信（Webページ、学校だより、SNS等）
- ・学校運営協議会、後援会等
- ・学校公開、授業参観、地域連携学習
- ・特別支援学校のセンター的機能（各種教育相談、乳幼児相談、パートナー・ティーチャー派遣事業等）